
行く先失った思い

あくあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

行く先失った想い

【Nコード】

N5660B

【作者名】

あくあ

【あらすじ】

夢を見る…あなたが頭から離れなくて…でも想いはずっとあなたへ向かっている。

私は煉瓦の花壇に腰掛けていた。
さわやかなそよ風が私を包み、何枚かの木の葉が横を舞う。
後ろから近づく足音。

「さくら…」

振り返ると、愛しい人が微笑みながらこっちを見ている…

「純。」

触れたくて急ぎ足で近づいた。

「さくら…さくら!」

目を開くと、さっきまで見ていた顔と同じ…でも、ちょっと違う。

「翔…?」

彼は私の前の席に座って話しかけてきた。

「お前いつまで寝てんだ?とつくに放課後なってるぞ?」

ふと時計を見ると、6時になる少し前だった。

「…ほんとだ…全然気付かなかった。」

彼はさみしそうな顔をしたあと、そつと呟いた。

「純……か…」

2人しかいない教室。その声はハッキリと私に聞こえた。

窓の外を見ると綺麗な緑の木々達が、夕日色にほんのり染まっ
て、

心が締め付けられるような…そんな淡い色を出していた。
私はあの日から毎日のように同じ夢を見ている。
純は私に微笑みかけて、いつまでも思い出を引っ張り出す。

ねえ……どうしたらいいか…何をしたらいいか…
どうやって生きてらいいか…何にも…何にもわからない。

「ごめん。翔…」

帰り道、突然口を開いた私に翔は驚いたと思う。
それから私は何も言わず俯いていた。

「なんでお前が謝るんだよ…」
胸が苦しくなった。

純がいなくなつてから、翔は私にものすごく気を使ってくれた。
自分も辛いはずなのに……

「ごめん…」

純を忘れるなんて絶対ありえないし、前を向いて生きてだっていけない。

「消えたい…消えてなくなりたいよ…」

「…ふざけんな!!!」

私の言葉に、翔は声を荒げて怒鳴った。

「なんでそう馬鹿なこと考えるんだよ…お前…」

お前までいなくなつたら…俺、どうなるんだよ…」

翔の初めて見る弱く泣きそうな目に、私は後悔した。

「……………翔。」

「…何？」

翔が涙をぬぐったように見えた。

「私、純が大好きなの…」

「……うん。」

「いなくなっても、大切なの…」

「……うん。」

「想いは、ずっと純の方に向き続けてる…」

目の前が見えなくなっていた。

「……………」

翔は私を抱きしめた。

翔の体が小刻みに動いていて、私も涙が溢れてきた。

大好き… 大好き… 純… どこにいるの？

帰ってきて… さみしいよ、切ないよ…

「俺がいるから…… あいつと同じ顔なんてお前は心底嫌かもしれない…」

でも、俺がお前を一生まもってやるから…!

「ううつ…」

ああ… 翔がいてくれて良かった。

ありがとう…

今は、まだそれしか考えられないけど…

あなたがいなくても、生きていく方法を探すよ。純…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5660b/>

行く先失った想い

2010年12月30日19時20分発行